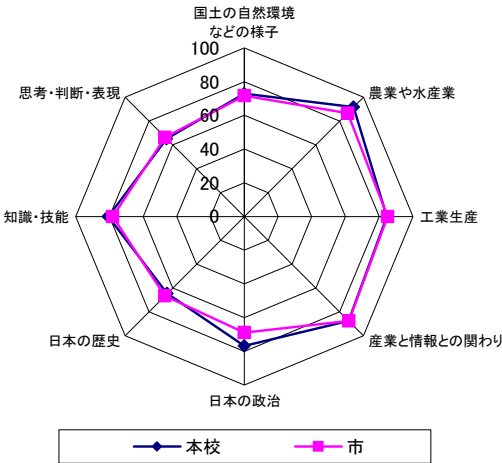


宇都宮市立東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.9	71.6	69.6
	農業や水産業	91.7	86.7	83.7
	工業生産	84.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	87.5	87.7	77.4
	日本の政治	76.8	68.9	71.7
	日本の歴史	64.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	80.7	78.0	76.7
	思考・判断・表現	65.2	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は72.9%であり、市の平均を1.3P上回っている。 ○日本の周辺の海洋名やオーストラリアの位置や国旗、沖縄県での自然を守る取り組みについて答える問題で、高い正答率を示していた。 ●国内の林業が抱える問題点について、例文の中から当てはまらないものを選ぶ問題で、正答率は32.1%と市の平均を3.1P下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地理的な学習では、これまで通りに地図や資料を用いた学習を積み重ね、児童がより学習内容を実感しながら理解できるような指導を心がけていく。 ・林業がかかえる課題としてあてはまらないものを選ぶという問題では、林業の課題を詳しく考える学習が求められた。今後、第1次産業における日本の抱える課題については、丁寧に学習を積み重ねていく。
農業や水産業	平均正答率は91.7%であり、市の平均を5P上回っている。 ○資料を手がかりにコメ作りの1年間について考えたり、コメ作りの盛んな地域について資料を選んだりする問題では、90～100%と高い正答率である。 ●現在の水産業の流通の仕組みについて、考える問題では、選択肢に似たような表記を使っているため、不正解を選んでしまう児童がいたものと思われる。	・日本の農業や水産業など地理的な学習では、これまで通り授業で様々な資料を読みながら考える活動を通して、児童の資料活用能力を育てていくようにしたい。 ・問題表記が複雑で、注意深く読んでいかないと、誤答を選択してしまうような問題を出题する傾向があるため、単元ごと要点をまとめるなど、大切なポイントをしっかりと押さえさせながら単元を進めていく。
工業生産	平均正答率は84.5%であり、市の平均と同程度である。 ○地図で工業地域の位置が何故海に面した場所にあるか、石油の輸入のグラフと合わせて考える問題はほぼ9割の児童が正答している。 ●自動車工場のイラストはロボットによる溶接作業と塗装作業の区別をつけられずに間違えてしまったようだ。	・複数の資料を使って考える問題が多いため、資料を見比べたり、資料を使って考えたりする活動を大切にしながら学習を進めていくようにする。 ・自動車生産の問題では、授業で見慣れた写真資料がイラストに変わって出題されており、1枚1枚の写真(イラスト)がいったい何を表しているものなのかを理解しながら学習を進めていく必要があると感じた。
産業と情報との関わり	平均正答率は87.5%であり、市の平均と同程度である。 ○テレビ、ラジオ・新聞のマスメディアの特徴を表から選ぶ問題では、正答率が100%である。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率75%で、市の平均を4.1P下回っている。	・私たちの生活と情報の関わりについて、これからも学習したことをもとに自分の生活を振り返るなど、生活の中で情報との関わりについて考えられるようにしていく。 ・インターネットの利用についての注意点や、どんな危険があるのかを考える問題では、SNSとか個人情報、安全なサイトや強力なパスワードなど、知っていないと答えられないような問題が多いため、これから児童が利用することを前提に学習をしていく必要がある。
日本の政治	日本の政治に関する問題の正答率は76.8%であり、市の平均を7.9P上回っている。 ○国民の義務や国民と国会・内閣の関係についての問題は、記述の中から正しいものを選ぶ形式の問題で、正答率が高い。 ●正答率が低かったのは、内閣という言葉を書き記述する問題で、正答率は57.1%であり、市の平均は14.7P上回っている。	・日本国憲法で定められた天皇の地位や権限、国民の権利と義務などの基本的な内容をよく理解しており、今後も資料の読み取りなどに重点を置きながら、丁寧に学習を積み重ねていく。 ・三権分立の図をもとに国会や内閣、裁判所の働きについて説明させるなど、重要な語句を十分に理解させるようにしていく。
日本の歴史	日本の歴史の学習に関する問題の正答率は64.7%で、市の平均を2P下回っている。 ○どの時代の問題も、基礎的な内容にふさわしい記述を選択する問題では、おおむね正解が選んでいた。 ●八代執権北条泰時に関係の深いものとして、九州の防塁の絵を選び、なぜそれを選んだのか説明する問題は正答率21.4%と低く、市の平均を7.1P下回っている。	・歴史的学習の問題では写真や絵、地図などの資料がふんだんに使われており、児童の資料活用能力が求められているため、今後も資料活用能力をしっかりと身に付けていけるような授業の展開を工夫して行う。 ・ある出来事について説明する能力を育てるためには、その出来事の歴史的な背景や関連するできごとなども年表資料を効果的に用いて十分に理解できるようにする。